



東京新橋ロータリークラブ

TOKYO SHIMBASHI ROTARY CLUB

平成 24 年 9 月 18 日
卓話「ガバナー公式訪問にちなんで」
国際ロータリー 第 2750 地区ガバナー
佐久間 崇源 様

東京新橋 R C、東京レインボー R C とも初めてお訪ねするので、楽しみにして参りました。例会に先立ちクラブの現状等のお話し合いをしましたが、2750 地区のほとんどのクラブが直面している会員基盤強化の必要性を改めて痛感致しました。

公式訪問には目的が四つあり、その第一が R I 会長の掲げるテーマと強調事項をご紹介することと、ガバナーとしての方針を直接クラブの皆さんにお話をし、ロータリーが考えている諸問題について感心を高めて頂くことです。地区の運営方針は「ロータリーを楽しもう」を訴えました。これは 1989 ～ 90 年度の R I 会長が一度テーマに使われたものなのですが、私はその時シンプルでいいテーマだと思っていました。今回訴えようと思ったのは、決していいからというだけではなく、時代が変わったということも事実ですが、当時はもっとロータリーを楽しんでいたように思っていたからで、皆さんに「ロータリーを楽しむ」という気持ちを訴えたい想いでこれを掲げました。「Enjoy Rotary」ということで、何も理屈はありません。奉仕活動を始めとしてロータリーで起こるあらゆることを楽しむという、前向きな気持ちで受け止めて頂きたい、そう思う限りです。地区の強調事項は三つあります。一つめはクラブにおける戦略計画の立案と実践です。クラブの行く末を短期に区切って、年度ごとに微調整をしながらその目的に向かって進んで行く。その目的を是非皆さんで立案して実践してください。二つ目はクラブまたは地域社会での平和活動の推進です。これはロータリーの活動が様々な形で平和活動を助長するという事は皆さんご存知の通りで、今までと同じ或は新しい奉仕活動に一層力を入れて実行して頂ければ結

構です。三つ目は公共イメージと認知度の強化です。各クラブで取り組んで頂くことをテーマとして掲げました。

次に会員基盤、財団あるいは米山への支援のお願いです

が、今年度田中 R I 会長は日本人として三人目で、30 年ぶりに会長に就任されました。日本人が会長になったことは大いに祝いたいと思います。田中会長と一緒に年度の日本の 34 地区のガバナーになった私達が、何か応援できることはないだろうかと話しました。その中で結論は二つしかないだろうというその一つが会員増強です。R I の中で日本のロータリーの会員の減少というのは目を覆うばかりで、数十%という形で減少しております。これを食い止めてプラスに転じることで力になるということです。もちろん新しいメンバーをお誘いすること、しかしそれと同等に必要なのは現会員の退会を防止することです。このことを念頭において是非最低 3 % 以上の純増をお願い致します。

寄付は田中 R I 会長を応援できるもう一つのことです。奉仕には二つ方法があり、一つは皆さんご自身が自分の身体と時間とお金を使って行う奉仕であり、直接的で充足感も直ぐに表れて一番望ましいと思います。ところがこれを一年中行うことは難しいと思います。そこで寄付は第二の奉仕だと申し上げたいのです。皆さんの寄付は、蓄積されて皆さんがクラブでお使いになることもあるでしょうし、日本で、世界で他のクラブが皆さんに代わって奉仕活動を行ってもくれます。今年はもう十分だろうということではなく、寄付は間違っても強要するものではありませんが、志と状況がある方は是非、全体を押し上げる奉仕をお願いします。

寄付の二つ目は米山記念奨学会への支援です。



これは財団と違い奨学金であり、奨学金が減れば奨学生を減らすことしかできません。金額そのものよりも東京という経済基盤の中にあり、1,500 名を超えるメンバーを抱えている地区としては、その気持ちが少ないと思われることは非常に心外であり、この思いを共有されたらご寄付をお願いします。

公式訪問の第二の目的は、会長、会長エレクト、幹事と話し合っ

てクラブの現状を把握して有効な助言をすること、第三はクラブ会員の方々の意欲を喚起して奉仕活動を積極的に行って頂くこと。第四は公式訪問を通じて多くのクラブ会員との親睦と友好を深めることです。

最後に日頃地区でご活躍を頂いている方々に謝意を表するとともに、その方々を支えてくださっているクラブの皆様

に御礼を申し上げます。三ツ木平太郎さん（新世代支援インターンシップ委員）、岡田高治さん（米山記念奨学増進委員）をお願いしております。これからもよろしくお

願いを致します。

